2　ヨコハマに医学資料館を……

井出　研

ヨコハマにはこの二十年間に各種の博物館、資料館が建設された。県においても然りであるが、こと医学・医療に関するものはない。近代医学と呼ばれる医術以前のものについては日常生活のなかに、ともすれば埋没しがちであったために敢て取り上げられることがなかったのかも知れないし、また幕末から我国に入ってきたいわゆる近代医術については当時の新開地ヨコハマにあっては保存されることはなかったであろうし、また大正大震災や一日にして市の中心部が壊滅焼失した第二次大戦の横浜大空襲のために「資料」としては殆んどなかったといえるであろう。

しかし、それでもタイトルにしたような目的で何かはわれわれにできるであろうという意図から横浜市立大学同窓会が音頭をとり、日本医史学会で横浜在住の先生方や県・市医師会、地域住民の代表をメンバーとして設立の準備会を発足させた。平成七年である。広報活動の一つとして横浜総合医学振興財団の助成で「横浜医史跡めぐり」を編纂し、広く市民に新聞、講演などを利用して配布した。同時にかかる施設は市民レベルでと考えて横浜市長にあて陳情書を出し、また市会の議員方に働きかけた。いうまでもなく一八五九年のヘボン来航以来を目にみえる歴史としようとするもので、往時から現在の横浜市立大学医学部に至る沿革をあらゆる手法を用して再現し、これを常設展示とし、他は特設展示の手法と市民への医学教育に資するための教育展示の三本柱を考えている。昨年から市大事務局のアドバイスもあり、

医学部教授会からも苅地委員の参加を戴いた。ここに懸念していた問題が生じた。即ち、市民レベル的な発想が大学レベル或いはそれ以下にレベルダウンをする可能性である。本日の例会よりあと四日、この九月一杯に準備委員会はある決断を迫られている現状である。